

<医療的ケア児ワーキンググループの取り組み>

【第1回】 令和8年5月28日（火）10：00～12：00

1. 現状についての意見交換

把握状況

- ・相談支援事業所、介護障がいグループ、健康推進グループの把握状況等について意見交換を行った。

該当者への現状の対応

- ・把握後の対応について確認した。

2. 今後検討が必要な内容の意見だし

主な意見については以下のとおり

- ・保健所がどの程度把握していて、保健師の地区担当が情報をもらっているのか
- ・中途障がいの人がどれだけ潜在的にいるのか。その情報をどう得られるか
- ・情報を把握するための方法・仕組みがうまくできるとよい。
- ・就園、就学時に医療的ケア児コーディネーターが連携したほうがよい。ケアが必要な段階で将来どうしたいかについて保護者と話しながら、伴走「できる人がいるとよい。

<今後検討が必要な事項のまとめ>

- ・保健所の情報の把握 ・保健師、相談員の連携 ・中途障がいの人の把握 ・災害時の備え
- ・医療的ケアの範囲 ・介入のタイミング

3. 今後のスケジュールについて

以下のとおり進めることとなった。

回	内 容
第2回	・事例を通して、「過去の対応でもっとできたことがあるか」、「現状の支援で他にかかわれることはないか」、「就学などこの先を考えたときにどこがどう関われるとよいか」等を時系列で整理する。 ・どのタイミングで医療的ケア児等コーディネーターが配置されているとよいかの検討
第3回	・医療的ケア児等コーディネーター配置までのフローの検討
第4回	・医療的ケア児等コーディネーターが機能するための他機関との連携について検討
第5回	・高浜市としての医療的ケア児等コーディネーターの配置から伴走の動き方についてフロー図の作成

【第2回】 令和8年6月25日 10:00～12:00

1・事例検討

相談員より事例提供を行い、検討した。

主な意見は以下のとおり

(1) 過去の対応でもっとできたことはあるか

- ・事例検討表で黒塗りのところは保健師からの情報で相談に入っていない。今回の事例検討のために得た情報が多く、医療とサービスの整理をしてわかった点。一緒に動く又は経過の共有が早い段階からあるとよい。
- ・福祉サービスを利用するにあたり、どういう情報があればよいかという視点も関係者で共有できているとよかった。
- ・相談員だと医学用語の理解が難しいため、保健師との連携が必要。
- ・就園に関する情報提供が十分にできていたか不明。

(2) 現状の支援で他に関われることはあるか

- ・病院のカンファレンスでは、病院側が相談員を求めないことがあるが、相談員もカンファレンスに同席してもらうとつなががうまくいくのではないか。
- ・どんな時でも、家族は先の見通しが欲しい。医療だけでなく、リハビリ、体の発達など。この事例の場合は、外国籍のため、日本での就学に関する流れを見通せるような情報が必要。

(3) 就学などこの先を考えたときにどの機関がどう関われているといいか

- ・本事例の場合、気管切開が取れたら地域の学校という選択肢もあるか。学校側にも親への情報提供を含めて早めに知ってもらえるとよい。

(4) 医療的ケア児等コーディネーターの配置が必要なタイミングについて

- ・確認しようとする情報に医療情報がない。相談員には医療用語が負荷となるため、わかる人が伴奏してくれるとよい。
- ・早い段階で医療的ケア児等コーディネーターがいるとよい。

2. 第1回で出た検討事項について

- ・保健所と保健師の連携状況について⇒保健師が確認
- ・中途障がいの人把握⇒どこで確認がよいか、フロー図ができてからのイレギュラーケースとして考える。
- ・災害時の備え⇒保健所は人工呼吸器の子を対象に災害時の計画を立てているのではと思われるが、各機関の連携がとりきれてないため共有されていない。
- ・医療的ケア児の範囲⇒どこまでかは難しい。他部署を含め確認とする。

3・次回について

- ・当初予定していた第3回と第4回の内容を入れ替え、実施する。こども育成Gと学校経営Gに参加してもらう